

地域包括ケアシステムの更なる深化を目指して ～近代医学・西洋文化伝来の地からの発信～

★令和元年10月4日～5日

第59回全国国保地域医療学会



開会式の様子

第59回全国国保地域医療学会は、押淵徹学会長（長崎県：国民健康保険平戸市民病院長、全国国民健康保険診療施設協議会長）のもとで令和元年10月4日（金）、5日（土）の2日間、長崎市の長崎ブリックホールにおいて開催された。

今学会のメインテーマは「地域包括ケアシステムの更なる深化を目指して～近代医学・西洋文化伝来の地からの発信～」。同会場には全国から1,134人（本県からの参加者は27人）の国保直診関係者、市町村長、国保関係者、学生などが参集して開催された。

学会は、4日午前9時30分からの開会式で幕を開け、押淵徹学会長の開会の挨拶に続き、原勝則国民健康保険中央会理事長、古庄剛長崎県国保連合会理事長、田島健一佐賀県国民健康保険団体連合会理事長の3

氏が主催者挨拶を述べた。

その後、加藤勝信厚生労働大臣（濱谷浩樹保険局長代読）、中村法道長崎県知事（安永留隆福祉保健部次長代読）、山口祥義佐賀県知事、横倉義武日本医師会会長（釜菴敏常任理事代読）、小熊豊全国自治体病院協議会会長の各氏から来賓祝辞が寄せられた。

開会式に引き続き、令和元年度全国国診協会長表彰及び昨年の第58回徳島学会での優秀研究表彰が行われ、金丸吉昌副会長よりそれぞれ表彰状及び記念品が授与された。

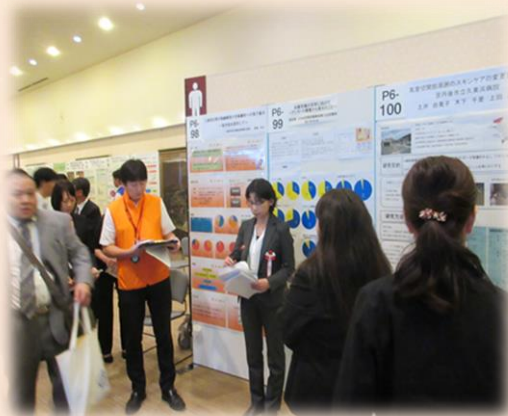
学会プログラムの1日目は、朝長万左男日赤長崎原爆病院名誉院長の特別講演「核兵器なき世界の実現と医師の役割」、村上英之足寄町国民健康保険病院院長の会員宿題報告「北海道における地域医療の現状と地域包括ケア実践の課題」、片峰茂長崎大学名

誉教授の特別講演「医師の需給と偏在対策」、国保直診開設者サミットと6つの教育セミナーが行われた。

2日目はシンポジウムと1つの教育セミナー、市民講座が行われ、研究発表では、参加型ワークショップ、講演発表とポスター発表が行われた。

なお、来年度の第60回学会は北海道開催のもと「未来へつなげよう地域包括ケアの輪～北の大地から新たな時代に挑もう！～」をメインテーマに令和2年9月25日(金)、26日(土)の2日間、札幌市民交流プラザ・ニューオータニイン札幌で開催される。

ポスター発表



《座長》
国民健康保険天草市立河浦病院
看護総師長 藤本ひとみ 氏



《座長》
国保水俣市立総合医療センター
副看護部長 松下小百合 氏



上天草市立上天草総合病院
理学療法士 千原好博 氏

＜演題＞
体組成計からみた「がんリハ患者」・「心リハ患者」の
身体的特徴～骨格筋量とSPPBに着目して～

口演発表



《座長》
国民健康保険天草市立河浦病院
院長 中川和浩 氏



国保水俣市立総合医療センター
放射線技師 山中浩平 氏
＜演題＞
パイナップルジュースを用いた MRCP
造影剤費用削減の検討



上天草市立上天草総合病院
院長 脇田富雄 氏
＜演題＞
オピオイド持続点滴で緩和ケアを
おこなった腎不全合併末期心不全の
一例



八代市立医師会立病院
副院長 森崎哲朗 氏
＜演題＞
医科・歯科連携により経口摂取を継続
しながら在宅医療で看取った高齢者口
腔癌の1例



錦町役場健康保険課
保健師 藤川絹代 氏
＜演題＞
生活習慣病予防のための中学生の
健康診断の取り組み



国保水俣市立総合医療センター
看護師 佐々木良子 氏
＜演題＞
せん妄ケアの質の向上を図るための
教育介入の効果～学習会とせん妄ア
セスメントシートを活用したカンフ
ァレンスを実践して～



国保水俣市立総合医療センター
臨床検査技師 下野原壮 氏
＜演題＞
当院における遠隔病理診断システム
を用いた地域連携